

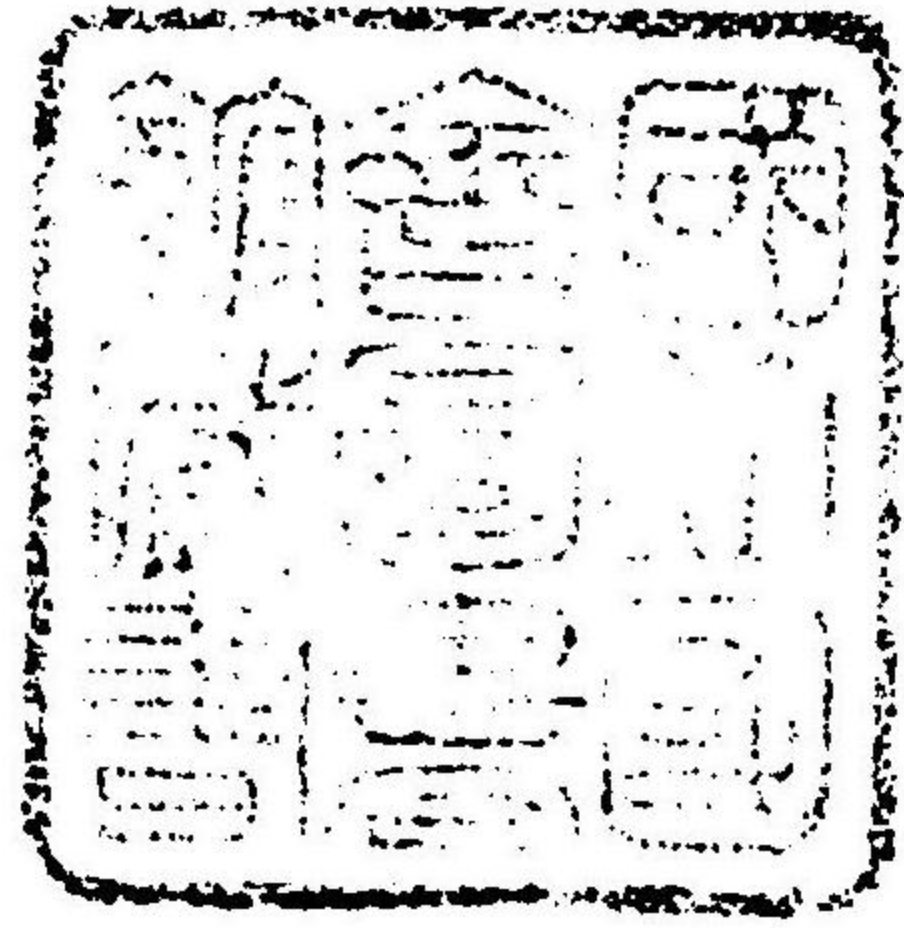
殉難後草

完
二

911.157

Z53₃

(W)t



国立国会
25.3.31
図書館

112452

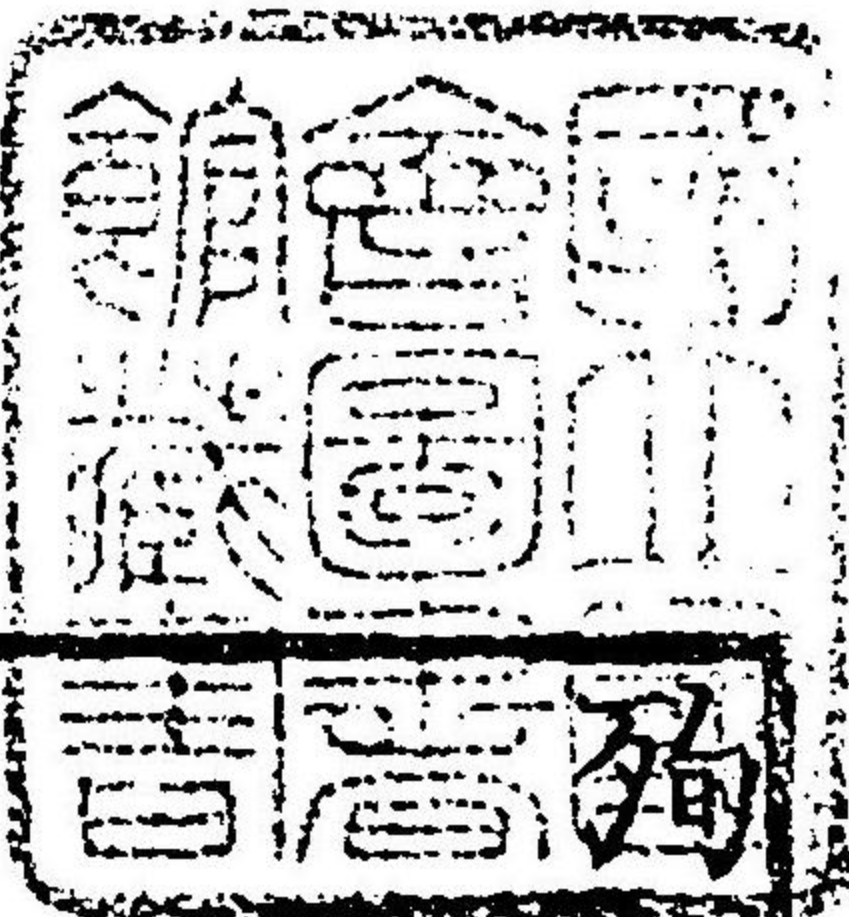
弱能は州一節
我々世甲寅あめこし海東志をくはる
是のうお身懐慨其の園はせり
有意なる中お梅田の一月はし
此家等其奈西をのれはあ
を先うは奇あるは解世あ
遠は情を集出因跡物集
集弱能前子そ奈科分
を小はるるはあ中お



大和の義家我但馬の忠懐あるは其社意
うたふの難儀度甲子乃礼家都て我死
其もとす東國難のおおお都とてる福史
のほしきと先のなまふもれくるは義博の
あまうあまう年たともあまうあまう集
年一あまう

代辰初五下旬

まきまきまきまき人後



殉難後草

目録

- 永井隆尚 称雅樂長州人 文久三庚年二月五日死
- 仙石貞雄 称左右雄但州人木首徒 同年二月廿七日自殺
- 来原盛切 称良藏長州人 同年六月廿三日自腹
- 野崎政盛 称主斗和州十津川人 同年九月
- 藤本真金 称津之助号鉄石備前入 同九月廿七日於和州戦死
- 肥田晋 称左衛門河州人但州妙見山に於て 同年十一月十四日自殺
- 安積武貞 称五郎江戸人大和一挙徒 元治元年二月十八日死

再出

伴林光平

稱六郎和別人
同年同月同日死

酒井重威

稱傳治即筑後入苗米人
没年同上

森下茂忠

稱義之助因別人
没年同上

山本朝正

稱誠一郎長別人
大坂新堂前三戶
同年二月廿六日自殺

今井通一

稱精一同國人
没年同上

頼徳朝臣

姓丹波錦小路叙右馬頭
同年四月十五日於馬關卒去

宮城義勝

稱彦輔長別人
同年六月廿二日自殺

再出

真木保臣

稱和泉守姓平久苗米之神官
同年七月廿二日自殺

久坂通武

稱義助初号玄瑞長別人
同年同月廿日自殺

原 肩雄

稱陸太次苗米人
通武与同於鷹司殿自殺

小橋以義

稱友之助讚列高松人
於同所戰死同上

若松 某

稱弘之進豐後府内人
同上

伊藤知義

稱幸之助土及人
同上

丹羽正雄

稱出雲守三條殿大夫
同年七月廿一日死

平野國臣

姓大中臣稱治即筑前人
同上

横田精之

稱友治即因別人銀山一舉
同上

昌木春雄

稱將監水戸藩筑波一舉
同年九月九日戰死

益田親施

稱右衛門佐初彈正長別人
同年十一月十七日割腹

福原元佃

稱越後長別人
同上

國司朝相

稱信濃長別人
同年同月十三日割腹

周布國武

稱政之助長州人

小國 某

同年九月九日自殺
稱融藏長州人益田臣

松野 某

同年十月死
稱顯防別德山人

須子 某

同年十月七日於大坂刑
稱吉治郎長州人

忠光朝臣

沒年同上刑

塙 重義

稱又三郎水戶藩
同年同月三日刑死

橘 氏順

稱辰之助同藩
同上

齊藤 強

稱孝治郎同藩
同上

砂押正利

稱忠治郎同藩
同上

木村重道

稱愛之助丹後人銀山一奉
慶應元年京都穿內三死

竹田正道

稱六右工門但馬人銀山一奉
同上

丸谷 某

稱志津馬和州人
同北

中村無二

稱延太筑前人同別博多三於了
同年正月廿二日自殺

武田正生

稱伊賀守又新雲初彦九郎水戶藩
同年二月四日刑死

同 正滿

稱舞耶
同上

藤田斌雄

稱小四郎
同上

朝倉 某

稱彈正
同上

國分 某

稱新太郎
同上

川上忠固

稱清太郎
同上

原 某 称内藏助 同上

岸 某 称信藏 同上

竹中 某 称万治郎 同上

伊藤 某 称健藏 同上

黑澤 某 称五三郎 同上

杉山 某 称弥一郎 同上

大和 某 称外記 同上

森川 某 称長吉郎 同上

福田 某 称爲之助 同上

米川 某 称文藏 同上

中村 某 称藤三郎 同年同月十九日刑死

武田氏時女 伊賀守正生妻 同年三月廿五日刑死

同千代女 彦左門妻 同上

田丸氏女 指之空門女 同上

床井 某 称注藏武列忍三於子 同年五月十五日刑死

園部 某 称俊雄同上水戸藩 同上

平井義比 称叔治郎土州人 同年五月十一日屠腹

間崎則弘 称哲馬同藩 同上

增田 某 称仁左門江列膳呀人 同年十月廿一日切腹

武藤 某 称善吉水戸藩 同年同月廿五日自殺

柿栖 某

称治郎左門同藩
同上

那須 某

称寅藏同藩
同上

水野 某

称哲太郎同藩
同上

近藤信成

称岩五郎加列藩長崎ニ於テ
同二年寅九月十四日自殺

田中信行

称虎藏同藩
同三年卯三月十五日自殺

佐野重成

称十五之助尾州人於會邸
同年六月十四日自殺

村井政禮

称修理少進
同年十二月十一日死

福嶋正盛

称男也防州徳山人
同四年辰正月六日戦死

瀧 某

称善三郎備前入
同二年二月 自腹

三枝 某

称翁和州郡山在之人
同三年三月四日刑死

殉難後草

青雲閣兼文稿

永井稚樂隆尚

辞世

欲報君恩業不央 自差四十五年狂
即今成佛予非意 願師天魔補国光

そとさうふ何と云んぞとを
ふんはなかくあふくふふなま
✓ 志はたか持るいのちハおろし
あふくふふなま

仙石尤右雄貞雄

辞世

うやまをりしとみ浦ふ河をと志
まをるを志古はくをりしとみ

来原良藏盛切

辞世

うやまをりしとみ浦ふ河をと志
まをるを志古はくをりしとみ

野崎主計政盛

うやまをりしとみ浦ふ河をと志

おのりしとみ浦ふ河をと志

藤本津之助真金

うやまをりしとみ浦ふ河をと志

おのりしとみ浦ふ河をと志

うやまをりしとみ浦ふ河をと志

おのりしとみ浦ふ河をと志

うやまをりしとみ浦ふ河をと志

おのりしとみ浦ふ河をと志

肥田左門藤原晋

うやまをりしとみ浦ふ河をと志

うらたうたを國ふむく

安積五郎武貞

辞世

おろのぬる男も君夫の妻をゆき
みやあの花もちりきり

伴林六郎光平

あう代もいふはと昔一節
くつけたてゆき仲はあつた
花もさる金糸帯藏もろくろ
寝ふも業ありちりも丁

栗田山あさくしりまやほ

まけもけらる時るうか

まきうらる月もまら

なつらるる星乃あ

ちまもあつたも佐

さかんまのあま

おろく小庭のほ

うらまきま

敵山あまのい

あけつたま

月より雪は露を化しなむらん
我はゆくはよの秋はゆくもえ
あゝ浪もよきふ時多て大丈夫の
うらむ乃里も冬にふいふ事相
多おゆく星はまゝもかの世事ふ
せめんたまてく世ものぬ乃そ
我意ハばとせふ志事か清澄は
小筆のうらむくちとせやふ
あのみくく秋くくちくけ
ほむくくそ乃みちくくかかん

酒井傳治郎重威

獄中作

田天策蹶事皆空 名實易混賊與忠
顔果文山唯吾友 古今雖異義相同

森下義之助茂忠

嘆うけをうらむやし老木のゆり花

山本誠一郎朝正

辞世

雨をうらむもちやけはるる花
そこのたれもハなふさくしとく

今井精一通一

大君は命の山乃は命を継ぐ事
ハ事あるは命を継ぐ事

辞世

投ふは命をわく事
その如く命をわく事

錦小路右馬頭頼徳朝臣

いそぐれも命をわく事
赤らる事乃なりのおれ 月
若くは命をわく事

宮城彦輔義勝

宮城彦輔義勝

辞世

老ふは命をわく事
若くは命をわく事

真木和泉守保臣

おはすは命をわく事
かろは命をわく事

天朝は建白する事

命をわく事乃なりは命をわく事

みまつ〜家人のあり〜

幽室中

かゝる子とて〜

〜人母のあり〜

天王山〜月夜の時〜

大山の暮れ〜

〜月乃あり〜

久坂義助通哉

胡雲漢々尽冥朦

天下無人護聖躬

九關他年遭吉夢

金剛山在野山中

舞曲小撰して作

世とかり〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

おらまへくまの備のなつたよき
しくおうね持たまひあつたよき

九月十三日園遊のまゝ

おもひにやい培たつるほとほくまへ
おらのまへひ乃月とらん

平野次郎大中臣國臣

まはまへく甲方結まへ浪志のまへ
りつらまへ安乃意ふまへ
まをまへかかひまへ
人おらまへとまへ

こらまへくまへ
まへまへくまへ
みまへくまへ
大君おまへけまへ
まへまへくまへ

所親征のみまへ
まへまへくまへ
まへまへくまへ
まへまへくまへ

なほいふぬまをわくくくをせり

獄中作

従天下人稱賊生 天朝一容賜忠名
十年辛苦既已解 點尤獄中待落成
天津り結ひ後ふよりそり業あふとと
志くは平し松の志くはくくあたる
あきしめとわくわく大持の志くはくく
ほくしー 枝葉も松をくく金ー

辞世

龍欽虎口奇斯身 半世功名一夢中

他日九原埋骨處 刑餘誰又認孤忠

○

我まはあひひくくくくくくく

なくそくくくくくくくくくくく

横田友治郎精之

確くはを羅くくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

昌木將監春雄

辞世

去後んまも弓矢を捨ぬ業いふ

益田右衛門佐

しよはくふ何ふあやまんしんしん
とんもあしんも名のかりるしん

福原越後元備

辞世

しんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしん

國司信濃朝相

辞世

多年心志遂難演 徳爲下郎彼羈繫

君爲臨死無遺恨 黄泉長與楠公遊

飛鳥川にさゆふふふふふふふふふふ

うねねねねねねねねねねねねねね

周布政之助國武

三十九支

辞世

月明何唯武藏州 今昔光臨五大洲

爲客來能旋異域 空過三十九中秋

小國 融藏

四十二支

辞世

進立賊軍乱卒中 而無奇策奏成功

退投國難紛擾際 又無精刀支內証
天崩地裂哲人止 踰哭聲吞空殉死
殉死於臣素所分 唯恨從是正氣弛
歎慨有誰與我同 邦家頹敗今如此
四十一年回顧遙 平生學文終徒尔
起發室筮劍悲鳴 聞斷風濤半夜聲
右七言古體十四句

松野 蕨

辭世

浮名をいばるるの濁るありはしきも

君の御成りふおーむらさやん

須子吉次郎

そとふはをいそやうーむらさやんの

矢野のうははるる今朝の一大刀

中山侍從忠光朝臣

おりのこやらのあーむらさやん

ひまもをいそやうーむらさやんの

塙又三郎重義 十九七

おのり人跡はよなきけふ死出の山

ひまもをいそやうーむらさやんの

橋辰之助氏順 三十二支

君よりせん 橋辰之助氏順 三十二支
名をたらしむれのおかし 三十二支

齋藤孝次郎 強 十四支

嘆とんたのき 三十二支

おし 三十二支

砂押忠次郎 正利 三十二支

道成とやう 三十二支

うら 三十二支

木村愛之助 重道

み 三十二支

い 三十二支

橋 三十二支

を 三十二支

辞世

い 三十二支

を 三十二支

竹田村六右衛門 正道

お 三十二支

を 三十二支

丸谷志津馬國為

あきしらすを赤たけくけそふく代し
たけうるをたのむとふたうくくをうも

中村延太無二

三十一

有志の徒と従走の御

ひし節小我大君能治ゆか免其と

かむひまけゆくもたけく其のそ

明倫歌集はまのうら

かくもつるをいはずをさし一天降る

いづれおしえそふたうりかひ

あきしらすを赤たけくけそふく代し

あきしらすを赤たけくけそふく代し

都のまをまがらひにうら

あきしらすを赤たけくけそふく代し

あきしらすを赤たけくけそふく代し

伊賀守武田正生

あきしらすを赤たけくけそふく代し

あきしらすを赤たけくけそふく代し

あきしらすを赤たけくけそふく代し

あきしらすを赤たけくけそふく代し

武田魁郎正満

辞世

梅もは花のあはれふらうとまき

もつら乃とまきをあらぬはさなは

藤田小四郎斌勇

憂世慨時真無用 吟花嘯月却有情

營外今晨人若問 軍將醉卧未全醒

かたきよりのあひむたのまきを

くふ大若いけけけけけ

さ久梅とほふとあくちとまき

あひひとまき 花あひひ

朝倉弾正

久さ花月あまなまきや

あふうからまき 涙のうらみ

玉の結をたゆも清くまきとおこ

あひひ

まき花梅のあひひ

あひひ乃花あひひ

はくふのあひひ

まき

國分新太郎

原期万死復何悲 唯恨神兵未攘夷
魂魄不飯天與地 七生以世護皇基
男兒一日出鄉關 不遂志業復不還
埋骨何期墳墓地 人間到處則故山

男兒志氣
三三不敗

古山

原期万死復何悲 唯恨神兵未攘夷
魂魄不飯天與地 七生以世護皇基
男兒一日出鄉關 不遂志業復不還
埋骨何期墳墓地 人間到處則故山

川上清太郎忠固

玉の結結結とよきいぬわりの
系大系乃 所落もも
白崗山 暮吹おろけも多
中ももも 推り推り
いふせん 推り推り
もももも 推り推り
月うけもも 推り推り
なげまもも 推り推り

さの上は人へんせもや さも国へ

はふらぬらふもぬまきすもるゝ

さくさく結けりひらきく結むひそ

しあひまふなく暮のうらむひそ

ふも結積り中たふゆらう人ぬ

松とくろり結ともさくしぬらん

原内藏介

大若結ふをすくまといのらりち

しんさくほりさるゝさく結きくを

うらむらやなくらむの結きくを

さくくやけらさるゝさく結 唯一は

さくくゆ久き暮あのをふとららるゝ

たぐほの暮乃きくほくもかぬ

ふ川の暮結ふさく結きあふ

さくらあきく結ふさく結きあふ

あふんさく結ふさく結きあふ

さく結ふさく結ふさく結きあふ

さく結ふさく結ふさく結きあふ

さく結ふさく結ふさく結きあふ

鼓の海井と結ふさく結きあふ

かきくしんまゝならかゝるるる

岸 信藏

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

竹中万次郎

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

伊藤 健藏

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

黒澤五三郎

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

杉山彌一郎

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

きりぎりすのこゝろに 木々の梢に
みづのさしやうを せうの 雲に
かきこもる けしきを ぬる 年の
まはりの ながさし けしきを ぬる
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の

大和田外記

森川長吉郎

まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の

福田爲之助

まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の
まはりの けしきを ぬる 年の

米川文藏

まはりの けしきを ぬる 年の

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

我れもこうえり 弘如のやむゆい

中村藤三郎

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

武田耕雲斎妾之記

辞世

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

同彦右衛門妻之代

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

田丸稲右衛門女十九才

あつむ結くしきつくるせむし中りふ

床井庄藏

快刀降毒術如神 痼疾瘳未體日新

不用蓬來求藥去 世門還有若死人

辞世

玉の結乃絶ともいふそまひくつこ
そくしあふりしそくかきけと

園部俊雄

我死なむとふみのあつふりゆの結

海老の糸とあつふりゆの結

囚中良事

落魄空從染汚塵 不關月夕又花晨

英雄事業今何處 漫學當年捫虱人

平井収治郎隈山

嗚呼悲哉兮。綱常不張。洋夷陸梁兮。過

事無防狼臣偏強兮。憂在蕭牆患世憂
國兮。忠臣先傷月諸日居兮。奈吾神皇。

又

劍鳴白日暗雲烟 怨恨三年豈不旋

請看狂風陰雨夜 飄々魂魄遠長天

間崎哲馬滄浪

二支不執る娘のまよひの結

主人のあつふりたるつゆの結

おたわりのまよひたるつゆの花

丈夫今日死何悲 稍見聖朝修舊議

一事猶餘千載恨 京畿未堅拍章旗

又

容樓迎月思悠悠 銀漢風涼三五秋
王道何時如此夕 滿天光耀照諸州

又

易箠結纓同一悲 男兒至死好容儀
忠魂與白雲不滅 掛在公家無字旗

增田仁右衛門

清癯帖

忽被幽囚禍期心總作灰 吼鯨水城上

吟蜚占庭隈 淚深澗江竹 身癯疲嶺梅
何時攀膝下 盡地訢斯衷

曾向邊城期建勳 豈圖劫被穢妖氣

憂心怡々思家眷 泣血漣々望祖墳

飢鵬爭餐深夜月 孤鴻呼侶暮天雲

獄憲時有秋聲過 落木蕭々不耐聞

○死生窮達任蒼天 唯歎汚名及祖先

標榜卒招三俊禍 輕裝難遂五湖船

窓間月送閑書影 枕上夢速荒砌迎

幸賴君恩脫斯累 石光山下保終年

述懷

往事茫茫夢一新 是非今日向誰陳
 春郊曾醉吟詩客 秋峯嶺思採草人
 傳信難看黃耳到 攘夷安得赤心伸
 飄然易遂初年志 渙水樵山慰老親
 秋夕傷心

故里秋風

故里秋風
 秋夕傷心

秋夕傷心

秋夕傷心
 入おの鐘不

名所秋風

期心都画餅誰識滿胃悲夜永燈光暗
秋深蚤韻衷志同換武節思切李陵詩
易脫如今苦徜徉祿水湄

秋物々々 糸々々々 糸々々々
しりふふふふ 糸々々々 糸々々々

豈但幽囚禍此身 汚名終及一家人
無窮不孝何時贖 遙向庭園泣拜親
不酬鞠育恩終過此憂患風徹階辺竹
露含窓外蘭馬前難暴骨膝下欠果歡

秋苦無陳處泣涕溼肺肝

又

獄裏蕭々秋色寒 滿胃憂苦有誰憐
強凭窓底糊繩紙 寫出訴愁歌幾扁

武藤 善吉

春此うとと我大云うさふん

いやひそくく 糸々々々 糸々々々

柿栖治良右衛門

卯ま月木々々 糸々々々 糸々々々

ちんちんく 糸々々々 糸々々々 糸々々々

ゆゑにむらさきとけり引さしとむべまの
たゞとてさしつちふゆりひさるるゆゑ

村井修理少進政禮

七月十九日朝東辺火起礮々振天吶
喊之聲徹耳未知何變踰明日火益熾
焰炎遂逼本獄有人而握捨者數十人
遽来修現在獄人三條西公大夫河村
能登守秀就三條公大夫丹羽出雲守
正雄及僕二人實治但州一舉人平野
國臣湖耳横田靖之治号取素行本多郎

大村包房之号大和一舉人乾從龍計

森本勝定衛傳兵古藤秀親衛順及僕二

人常鶴松脱走士水郡長雄小隼吉田良

秀直藏你母景光建石川定元善之原田

一作一作同茂聊之田中捕之木村捕

中倉聊治等軒足利將軍之像人長尾

景雄聊三今年六月以嫌疑繫縛人古

高正順駿太長藩士山田號之内田聊

佐藤聊其地關係彦山僧亮親嚴備成

連教横田某依屋清兵衛元在於長

藩放逐人吉田即南雲即櫻山即等以
上三十三人就於刑壇斬之予不堪念
慰憚而作

山崩河裂國將淪
劫火疾子飛葛輪
火炎焦天地赤
濫刑斬個赤心人

題松楠論後

孝養平相無遺憾
忠到楠氏誰問君
欽倣名節二公業
男子必順酬呀天

福島男也政盛

辭世

二十八文

いそぎをこころあはしむ
くまをうけり乃死出は山みら

瀧善三郎

辭世

さけぶらん
那戸の浦乃名をやはらげ

三枝 共羽

二十九文

辭世

いそぎをこころあはしむ
さけぶらん

此書を前に讀むると集先程を
讀くことゝなりぬるや
讀むに解るるや
讀むに解るるや